あるコンサートのプロデュースにおける“協議”と“和合”

杉 本 康 希

この研究報告は、私がプロデューサーとして企画・製作し、１週間後に本番を迎えるあるコンサートのプロデュースの過程におけるさまざまな出来事を通して、バハイ信教の基本的教義である“協議”と“和合”が、どんな時、どんなことで、どのように活かすことができたかにつき、報告としてまとめたものです。

このコンサートの主催者である NPO 法人（NONPROFIT ORGANIZATION）は、身体障害者の自立と社会参加の支援活動を目的として設立され、身体障害者に対する偏見や差別を除去し、すべての人が生き甲斐をもてる社会の実現を目標としています。

従って、プロデュースに当っては、主催者の社会活動の目的を意識し、出演者、楽器、曲目等について、可能な限り多様に組み合わせ、これを乗り越えるべき“バリア”として想定し、プロデュースのテーマとしました。

ところで、このコンサートは２００６席のサントリーホールで公演されますが、このような大規模な公演におけるプロデューサーの役割は、極めて多岐に亘ります。主催者をはじめ、出演者、編曲者、音楽監督、舞台監督、制作スタッフ、音響、照明スタッフ等、５０人を越える人々との意志をひとつにまとめて行かなくてはなりませんが、ここで“協議”と“和合”というバハイの教えの実践が如何に重要な役割を果たしたかを、ご報告いたします。

“協議”についての基礎知識

「“協議”とは、多様性の中の“和合”を実現するために、分裂のない集団意志決定を促進する方式である。」

＜協議に臨む参加者の心構え＞
- ○ 献身的な心で・・・
- ○ 礼儀をわきまえて・・・
- ○ 気位いを正して・・・
- ○ 思いやりをもって・・・
- ○ 節度を保って・・・

＜発言を聴く時の心構え＞
- ○ いたずらに否定せず・・・
- ○ むやみに批判せず・・・
- ○ 偏見を持たず・・・
- ○ 感情的にならず・・・
- ○ 個人攻撃をせず・・・

＜発言する時の心構え＞
- ○ 遠慮しないで・・・
- ○ 素直に・・・
- ○ 建設的に・・・
- ○ 真実に基づいて・・・
- ○ 肯定し相乗して・・・

以上は、“協議”に関する心構えは、“協議”を進める上での基本となるものであり、正しい“協議”を成立させるために、参加者全員が守るべき約束ごとと言えるものでしょう。
ただし、実際にコンサートのプロデュースでの“協議”を進める時、私が最も重視したのは、＜聴く時の心構え＞の内容を敷衍（ふえん）した下記のような受けとめ方を、全員で共有することでした。

“協議”における最も重要な約束ごと

個人の意見 ＝ **全員の共有意見**

① まず、意見は、全員　　で囲んでいるテーブルの上に出す。（気持で）
② ひと度、テーブルの上に出された意見は、発言者個人のものでは無くなり、全員が共有する意見となる。（見做す）

＜結　果＞
↓

○意見を出しやすくなる。
○意見と意見を通しての協議の場となる。
○人間に対する批判や攻撃がなくなる。
○感情的にならない。

プロデュースにおける“協議”の実践

１．コンサートのテーマ

＜協議のテーマ＞
- ○ 主催者の活動との関係性
- ○ 融合（楽器、和×洋）
- ○ 主催者の活動との関係性

＜メンバー＞
- ○ プロデューサー　１人
- ○ 主催者　２人
- ○ 制作スタッフ　３人

２．出 演 者（楽 器）

＜協議のテーマ＞
- ○ メインの出演者
- ○ 共演実績の有無
- ○ 属性（性別,年齢、キャリア,ギャラ）
- ○ 楽器構成

＜メンバー＞
- ○ プロデューサー　１人
- ○ 主催者　２人
- ○ 制作スタッフ　３人

演 奏 者	演 奏 楽 器	年　齢	国　籍	
ヴァイオリニスト	バイオリン	５３才	在日韓国人二世	音楽監修
ピアニスト	ピアノ	３０才	日本	
パーカッショニスト	打楽器	４５才	日本	
琴奏者	琴（13.17 絃）	４８才	日本	琴リーダー
琴奏者	中国古箏	２８才	中国	
琴奏者	韓国伽倻琴	２７才	韓国	

＜スタッフ＞
編曲者　　１人

舞台監督	１人（＋　３人）
制作スタッフ	１人（＋２０人）
広報係	１人（＋　２人）
会場係	１人（＋２５人）
統括プロデューサー	１人
合計	５６人

３．演 奏 曲 目

＜協議のテーマ＞
- ○ コンサートテーマとの適合性
- ○ 演奏者と楽器とのバランス
- ○ 時間配合との関連性
- ○ 編曲との関連性

＜メンバー＞
- ○ プロデューサー　１人
- ○ 主催者　３人
- ○ 制作スタッフ　３人

４．リハーサル（パートごとに分かれて 15 回実施）

＜協議のテーマ＞
- ○ 編曲と演奏のチェック
- ○ 楽器相互の音のバランス
- ○ 融合、和合、フュージョン
- ○ ステージ配置
- ○ トークの配分

＜メンバー＞
- ○ プロデューサー　１人
- ○ 出演者　６人（＋スタッフ６人）
- ○ 制作スタッフ　３人
- ○ 編曲者　１人
- ○ 舞台監督　１人

プロデュースにおける“和合”の実践

“多様性”とは

① 質的に異なるもの・・・・・・伝統、文化、宗教、人種、性別
② 所在が異なるもの・・・・・・存在する場所
③ 存在理由が明確でないもの・・未知なる存在
④ 対立関係にあるもの・・・・・無理解

このように“多様”とは、ものごとの要素が多種多様であるという意味ですが、コンサートのプロデュースでは、下記の５点を“多様性”ととらえました。

○ 出演者・・・・・・・・・・・・性別、年齢、楽器、国籍、経験、知名度
○ 楽器・・・・・・・・・・・・・起源、形態、奏法、音色
○ 演奏曲目・・・・・・・・・・・クラッシック、ポップス、童謡：アンサンブル
○ 演奏・・・・・・・・・・・・・編曲がどう活きるか？
○ 関係する人・・・・・・・・・・全員で５６人

“和合”とは

ちなみに、“和合”の“和”という言葉には、“穏やか”とか“なごやか”“仲直りする”“加え合わせる”等の意味があります。
このコンサートにおける“和合”というテーマの場合は、制作上の多種多様な要素が単に集って一つになるのではなく、集まって、混ざり合って、融け合って一体となることを求めました。これは“足し算”（＋）ではなく、“掛け算”（×）の概念を意味するもので、そこに

新しい価値の創造を期待しました。

異なる
- ひ と(出演者)
- も の(楽　曲)
- こ と(演　奏)

融 合 ＝ 新しい価値の創造

融 合
- 人間的･･･アーティストとしてお互い認めあい尊重しあう。
- 精神的･･･コンサートテーマに対する共通の認識を共有する。
- 音楽的･･･異なる楽器、奏法を超えて融合。

以上のように、このコンサートの準備は“協議”と“和合”というバハイの教えの実践を通して順調に進められ、晴の本番を迎えようとしています。

このコンサートの本番は、大会での発表の１週間後、２００７年１０月１４日（日）夜、サントリーホールで満席（２００６人）のお客様を迎えて、成功裏に終了いたしました。